

## ～ 早春の谷戸 ～

早春の谷戸には、淡いかすみがかかっています。冬の朝のようなきりりとした空気は去り、そこそこに咲き始めた梅の花が、あたりの雰囲気のを和らげてくれているのでしょう。何も無いように見える足元にも目を凝らすと小さな花々、あそこにはたった一輪ですがもうタンポポクが。それに向こうの方でけぶるように黄色く咲いているのは、サンシュユでしょうか。

ずいぶん昔、子どもたちに読んであげた絵本に、男の子が外に冒険に出かける場面がありました。

最後のページで「ただいまー」と帰ってくる子のうれしそうな、ちょっぴり誇らしげな表情がかわいい本でした。読み終わった子どもた

ちも安心したような、いやまだ物足りないというような顔をしていましたっけ。

自然の中を歩いていると、大人にとっても、戻ってくるということがどんなに大切なことなのか、よくわかります。ふくらんだ冬芽の先にちょっと顔を出した緑の葉に、まだまだ寒いのに、縮んだ花びらを開こうとして震えているかれんな花に、「あ、また会えた

わね」と呼びかけられる喜び。早春の谷戸は、懐かしいものに再び会える、出会いの場です。

静かに歩いてみましょう。いち早く目を覚ました花や虫、それにもしかするとカエルたちまでもが「おはよう!」「また、よろしくね」とおしゃべりをしあっているのが聞こえるかもしれませんね。

(小川)



ゴンズイの葉もの一びのび